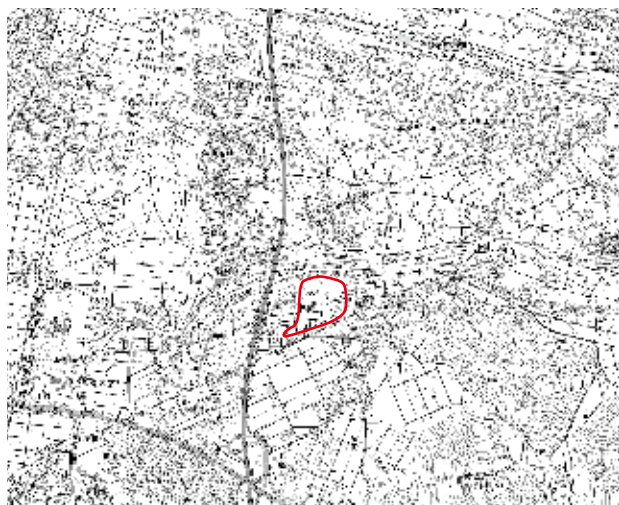


遺跡番号 201-323
 調査回数 第4次
 所在地 山形県山形市大字青柳字壺本木地内
 北緯・東経 38度17分59秒・140度21分51秒
 調査委託者 村山総合支庁建設部道路課
 起因事業 交通安全道路事業 一般県道東山七浦線
 調査面積 1,380㎡
 受託期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日
 現地調査 令和5年4月12日～8月8日
 調査担当者 天本昌希（現場責任者）・渡辺咲良・斉藤主税
 調査協力 山形市教育委員会・一本木土地改良区
 遺跡種別 集落跡
 時代 縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世
 遺構 竪穴建物、掘立柱建物、土坑跡、河川跡
 遺物 縄文土器・土師器・須恵器（文化財認定箱数：25箱）



遺跡位置図（S = 1:50,000）

調査の概要

北向遺跡は、山形市の北東部の楯山地区に位置する奈良・平安時代を中心とする集落遺跡である。本遺跡範囲南端部を横断する県道東山七浦線の建設に伴う調査が続いており、今年度は昨年度実施した第3次調査の西側延伸先を、第4次調査として実施した。なお、第1次・2次調査は、2003年と2005年に実施している。そのほかにも、本事業の道路に接続する市道部分を山形市教育委員会が2005年に調査している。

これまでの調査では、奈良・平安時代を中心に多くの

竪穴建物が検出されているが、第3次調査区には大きな河川が流れており、竪穴建物は展開していないことがわかっている。この河川は第3次調査区の西端で大きく蛇行し、調査区を外れる。今回の第4次調査区は、第3次調査区の西側に隣接し、途中調査不要と判断された地区を挟んで更に西側へ続き、合計面積1,380㎡を調査した。第3次調査区を覆っていた河川から外れるため、前回とは異なる遺構や遺物の出土が予想された。

調査の結果、これまでの調査ではほとんどみられなかった縄文時代と古墳時代の遺物がある程度まとまって出土している。前者は大洞A式期を中心とした縄文時代晩期末のもので、ほぼ完形の小型深鉢などが出土している。明確な遺構から出土したものではないが、本遺跡周辺の山形市北柳1遺跡や、天童市の砂子田遺跡と類似する時期のものであり、この時期の積極的な低地への進出を示す資料といえるだろう。

後者は古墳時代中期のもので、こちらも遺構に伴うものではないが、土師器の坏や甕などが出土している。ほか特筆すべきは須恵器の無蓋高坏で、口縁を一部欠くのみ良好な遺存状態の資料である。体部の腰の片側に把手がつき、脚には長方形の透かしが3か所入る。脚は短

く、中期後半の様相を示している。なお、この付近からは石製模造品の有孔円盤も出土した。

今回の調査で中心となるのは、奈良・平安時代のもので、竪穴建物が5棟検出している。重複もみられるため、総数はさらに多くなるだろう。付属するカマドは、明確なもので2基確認できるが、いずれも長煙道のものではない。出土品に関しては今後の整理作業を待たねばならないが、土師器・須恵器の坏や甕が主なもので、8世紀後半～9世紀後半に収まる。ほか掘立柱建物や土坑、ピットも同時期のものと考えられ、これは第1次調査以降、検出している竪穴建物などの年代観と同じである。よって同じ集落が今回の調査区まで展開していると推測できる。ただし、分布密度から集落の中心は、北東側に求められよう。集落全体では、第3次調査で検出した河川跡の北側と、現在の村山高瀬川の南側に挟まれた土地に展開する集落景観が復元できるだろう。

中世の遺構は、それ以前の遺構確認面より上位で検出されるため、洪水で地表が嵩上げされた結果と考えられる。火葬墓や壁際に柱穴をもつ土坑などがあり、火葬墓は遺存状態の極めて良いもので、壁面がよく焼けて赤色

硬化しており、明瞭な検出状況であった。隅丸長方形の長軸壁面の一部が両側とも焚口状に外へ飛び出る形状を呈している。覆土中には炭層があり、その下から人骨片が出土する。焼骨のため正確な判断は難しいが、確認できる限りでは成人1個体分のものである。

まとめ

今回の調査区からは、奈良・平安時代の集落の広がりが明らかになるとともに、周辺に縄文時代や古墳時代の集落の展開を予想させるものとなった。特に古墳時代のものは、付近に風間B古墳、間所免古墳の存在が知られているため、関連性もうかがわせる。縄文時代や古墳時代の遺構がなく遺物だけが単独で出土するのは、調査区の堆積状況から、河川の氾濫による流れ込みと考えられる。調査区周辺の扇状地末端部は、多くの河川が複雑に流路を変え、周辺の地形をつくってきたことがわかる。古代には河川の間集落が広がり、中世に入ると河川が埋没しはじめ、現在に近い地形になってからは、墓域として利用されたことが明らかになった。このように本遺跡の調査は、複雑な扇状地地形の形成と、その土地利用を歴史的に解明できる重要な手がかりとなるだろう。



写真1 重機稼働、遺構検出状況



写真2 遺構検出状況



写真3 基本土層精査状況



写真4 遺構精査状況 (ST273 竪穴建物)